

1 学校教育目標

○考える子 ○がんばる子 ○助け合う子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童・保護者・地域から信頼される学校 ○子供一人一人を大切にし、子供たちが「明るく生き生きと活力のあふれる」学校 ○子供・教職員ともに良さや可能性を十分発揮し、ともに成長する学校
○児童・生徒像	○子供たちがめざして欲しい「扇っ子」の姿を全校児童に ・「おもいやり」の心を大切にする児童、「うんどう」して体を鍛える児童、「ぎもん」を大切に、自ら学ぶ児童
○教師像	○自らの向上を図ることができる教師 ○学校運営に貢献し、主体的な提案ができる教師 ○学校、児童、地域に誇りをもてる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学力向上】落ち着いて授業を受けている児童が多く、基本的な学習規律は身に付いている。また、補習や計算名人検定の実施により、学習に対する意欲も高まってきている。しかし、意欲はあっても基礎学力の定着には結びついておらず、指導方法のさらなる改善が必要である。さらに、家庭学習の習慣が身に付いている児童が少なく、家庭と連携して学力向上に取り組む必要がある。

【自己肯定感の醸成】前年度は、児童の発表の場や体験活動など、自信をもたせたり達成感を味わわせたりする活動がなかなかできなかった。そのため日々の学校生活の中で、できる限り教員が認める声かけをするように努め、児童が学校生活の中で充実感を味わえるようにした。また、委員会活動や係活動など特別活動を充実させ、学級での自己有用感を高められるようにした。今年度はさらに工夫しながら指導を継続していくと同時に、自己肯定感の土台となる基本的な生活習慣を身に付けていけるように、生活指導部を中心に組織的に指導に取り組んでいく。

【教員の授業力向上】コロナ禍で活動が制限される中、意欲的に授業改善に取り組むことができた。しかし、基礎学力の定着には課題があり、児童にとって「できた。わかった。」と満足できる授業を目指して改善が必要である。また、ICTの活用について研修を深め、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業の実践を目指していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の醸成	○	○	○	○	○
3	教員の授業力向上	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童の基礎学力の定着		学力調査通過率 80%以上		国語 79.7% 算数 81.0%		算数は補習の成果により目標を達成することができたが、国語があと一步のため読解力向上に向けて取り組みを進めていく必要がある。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワーアップタイム	全学年 国語 算数 読書	火:国語 水:読書 金:算数 始業前	【指導者】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】計算プリント等	単元テスト ・全校共通ソフトに 入力し毎月確認	・単元テストで 正答率 80% 以上	単元テストでは、正答率 80%以上に達しない単元があり、学習内容によって定着度に差がある。	漢字の定着率に課題があり、朝学習での取り組みに改善が必要である。	△
継続	補習教室 (A補習) (C補習)	全学年・ 各教科	休み時間や放課後等	【指導者】各担任・専科 【ねらい】指導中内容の定着 【使用教材】プリント等	定着度 確認テスト 12・2月実施	2月テストで目標値を通過する対象児童 80%	予定通り実施。		○
継続	放課後補習教室 (B補習)	全学年 国語、 算数	放課後	【指導者】各学年担当者 (担任・専科・管理職等) 【ねらい】つまずき解消 【使用教材】 ・定着度テスト対応問題 等	定着度 確認テスト 9月に実施	2月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 80%	緊急事態宣言延長のため実施できず。		
継続	計算名人 検定	2年生～	2年かけ算学習後～ 3年～ 通年	【指導者】担・専・支援員 【ねらい】 計算力の定着 【使用教材】 計算問題プリント	定着度確認テスト (対象児童)	全学年 定着率 90%以上	かけ算に関しては、95%以上の児童が定着。	毎年継続して実施しているため年々定着率が上がってきている。さらに、実施方法を工夫しながら他の学習にもつなげていきたい。	○

継続	読書・読み聞かせ活動	全学年	年間	【指導者】担・ボランティア等 【ねらい】 読書習慣の定着・語彙の獲得・知的好奇心の涵養 【使用教材】記録用カード	記録用カード 題名とページ 数を記録	・1～3年 80冊/年 ・4～6年 6000頁/年 50%以上が達成	緊急事態宣言延長や感染状況により、教員以外の読み聞かせ活動はできなかった。	低学年は、担任・校長による読み聞かせを実施したが、緊急事態宣言延長の影響で回数は確保できなかった。	△
新規	プログラミング教育の充実	全学年	通年	全学年で年間通してICTを活用した授業を実施。 年間計画に沿って各担任によるプログラミング教育を行う。 タブレットを活用した授業実践についての研修会を行い、授業に活用していく。	年間計画作成・実施 年3回研修会	計画通りの実施確認	低学年 ログインの仕方 中学年 タイピングや調べ学習 高学年 jambood や forms を活用した授業など各学年発達段階に応じた指導をした。	タブレットの活用については今後も教職員の研修が必要である。	△
継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年1回 (4月)	【ねらい】 ・家庭学習の習慣化・協力 ・宿題の提出率を担任が確認	宿題提出状況 調査	宿題提出率 100%	宿題の提出率に関しては、どの学年も90%以上できている。	目標である100%には達成できなかった。今後も家庭との連携を図っていくと共に、子供たちが自主的に取り組むことができる力を付けさせていく。	
継続	サマー ウィンター スプリング スクール	全学年 算数 国語 各学年10 名程度 正答率 70%以下	夏休み 10日 冬休み 1日 春休み 1日	【指導者】担・専・管 【ねらい】 担任による少人数指導。つまずきの解消。解けなかった問題の解き直し等。 【使用教材】 ・プリント教材 ・次へのステップ等	校内学力テスト	次回の校内学力テストで正答率アップ	緊急事態宣言延長のためサマースクールは実施できず ウインタースクールを実施		
新規	扇寺子屋	全学年	通年	放課後キッズぱれっとの時間を活用し、自力で宿題に取り組むことが難しい児童対象に宿題の指導を管理職が行う。	宿題提出状況 調査	宿題提出率 100%	緊急事態宣言・感染者の増加をうけて時間の確保が難しく実施できなかった。	来年度は実施する。	

継続	MIMによる指導の充実	1年 そだち指導	年間 国語・ そだち 補充	【指導者】1年担任、 そだち指導員 【ねらい】MIMの確実な定着 【使用教材】プリント教材	MIM 実施状況 を毎月確認	1月に1stステージを85%	1月の配慮児童が全体の50%弱	毎月指導を重ねてきたが定着には課題が残った。来年度に向けて指導方法を工夫する。	△
----	-------------	-------------	------------------------	--	-------------------	----------------	-----------------	---	---

重点的な取組事項－2	自己肯定感の醸成
-------------------	----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分も他人も大切にできる児童の育成	児童の意識調査の「良い」の項目80%以上	ほぼ85%の児童が「学校生活は楽しい」と回答	80%以上の児童が学校生活は充実していると考えられる。さらに充実できるよう児童1人1人に応じた指導を工夫していく。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率90%以上 あいさつ名人 90%以上	学校便りや保健便りなどで基本的な生活習慣の大切さを各家庭に向けて発信していく。 「生活がんばりカード」を活用して家庭と連携しながら児童の意欲を高めていく。 「あいさつ」週間を通してあいさつのできる児童の育成を目指す。	学校便りや保健便り、給食便りなどで基本的な生活習慣については各家庭に発信した。しかし、「生活がんばりカード」の結果では、「早寝・早起き」に関しては達成率が80%にも満たない学年が多く課題が残る結果となった。また、あいさつに関しても、自分からできる児童は60%程度であった。	引き続き家庭への発信を続けていく。その中で、より具体的にその重要性を伝えられるよう工夫していく。また、あいさつに関しては、「あいさつ」週間の活動をさらに充実させていく。	△
人権教育の充実	年間計画に沿った「特別の教科道徳」の授業の実施。 教員の人権研修を年3回以上実施	「特別の教科道徳」の授業で「生命尊重」「思いやり」「他者理解」について指導を深めていく。 研修を通して教員の人権意識の向上を図る。 全校で場に応じた丁寧な言葉使いができるよう取り組む。	道徳授業地区公開講座では、「いじめ・友達」をテーマに人権擁護委員による授業を実施した。 教員の人権意識を高めるために年3回の研修の他に日頃より職員会議などで話すようにした。 言葉使いに関しては、週目標などで設定し意識の向上を図った。	「友達を大切にしよう」という意識は少しずつ育ってきているが「相手が傷つかない」言葉使いに関してはまだ課題が残る。	△

特別活動の工夫	児童が主体的に活動に取り組み、全児童が学級に必要とされているという自己有用感をもてるようにする。	学級での係活動の充実 委員会活動の工夫 兄弟学年活動の実施 学級やクラブ・委員会での話し合い活動の充実 発表の場を多く設定	コロナ禍ではあったが、活動内容を工夫しながら、委員会活動や兄弟学年活動を実施することができた。活動の中で、高学年が下の学年にアドバイスしたりリードしたりする姿が見られた。	活動の場面では、児童はよく頑張っていたが、「自分が頼りにされている。」と感じる児童は少なく、自己有用感をもたせる指導の工夫がさらに必要である。	△
様々な体験学習の実施	地域と連携した体験活動を年3回以上実施。 外部講師による出前授業を年3回以上実施。	地域の自然材を活用したり、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きしたりしながら、地域と交流を図り、地域の一員であるという意識を高めていく。 外部講師を招いたり、出前授業を実施したりすることで、体験活動を充実させる。	コロナ禍ではあったが、地域での芋掘り体験、スーパーマーケットの出前授業など、体験授業を工夫して実施することができた。4年生ではTGGでの体験を通して、国際理解やコミュニケーション力の向上を図ることができた。	体験授業で、子供たちが得たものは大きく、自分で考える力にもつなげることができた。 来年度も、実施方法を工夫しながらさらに充実させていきたい。	○

重点的な取組事項－3		授業力向上			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	全児童が「できた。」「わかった。」と実感できる授業の実践。	全教員による問題解決型授業の実施。 児童の「授業アンケート」の「勉強したことがわかる」の項目90%以上	全教員が「足立スタンダード」を意識して授業に取り組むことができた。児童のアンケートでは約90%弱の児童が「勉強したことがわかる」と回答した。	教員全体で「できた。」「わかった。」の授業改善への意識が高まったので引き続き行っていく。児童アンケートでは学年によって差があるので、全学年90%以上を目指していきたい。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

授業観察による授業改善	管理職による授業観察を年3回以上実施し、授業改善を図る。	授業チェックシートを活用しながら、自己評価をした上で管理職による指導を行い改善を図る。	授業観察を行い指導改善を図ることができた。チェックシートを上手に活用することはできなかった。	授業改善に対する教員の意識は高い。方法のわからない若手教員に対して先輩の教員が授業を見せるなど組織的育成に努めていく。	△
校内研究の充実	年3回以上の授業研究の実施 年5回以上の研修会の実施	各分科会でテーマを決め、お互いに授業を見合い、授業研究を実施する。 各教科の指導の工夫など、研修会をもち、お互いに発表し合い授業に活用していく。	今年度は、授業にとらわれず、各自学びたいことを決め分科会で深めていった。それぞれの分科会で学んだことを共有することで、校内の研究を広げることができた。	研修の際は教員同士お互いの課題を共有し、良い雰囲気研修を深めることができた。さらに、他の分科会と共有できるように工夫していきたい。	○
小中連携の充実	年4回の研究授業と4回の研修会の実施	9年間の見通しをもって、系統的な指導計画を立てる。 他校の指導方法から自らの指導を振り返り、改善につなげていく。	他校の授業を見ることで自らの授業を振り返る等につながり、授業改善の意識が高まった。 感染拡大のため実施できない研究授業と研修会があった。	お互いの学びを深めるために、さらに研究の方法を改善していく。	△
教科指導専門員との連携	毎月1回以上教科指導専門員と管理職で情報交換を行い、若手教員の授業力向上に努める。	教科指導専門員の指導記録と若手教員の週案などから、課題を確認し、授業の改善に必要な指導をしていく。	教科指導専門員と課題を共有しながら指導し、若手教員の授業改善への意識が大きく高まった。	教科指導専門員と管理職の密に連携することで、より具体的に若手教員に指導することができ意識を高めることにつながった。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア学力向上アクションプランについて

【課題】・補習の効果がみられ、学力調査の通過率が向上した。しかし、読み取る力や既習事項を活用する力に課題が残る。

・授業規律は身に付いているが、主体的に学ぶ態度には課題が残った。

【対策】・補習については少しずつ効果を上げているので、継続し、活用力向上のため内容をさらに改善していく。

また、朝学習の内容を工夫していく。

・読書活動を充実させることで、読み取る力の向上を図る。

イ自己肯定感の醸成

・コロナ禍ではあったが、児童を認める場や体験学習を工夫し、児童が自信をもつことができるようにした。しかし、自己肯定感を高めるには十分ではなかった。次年度に向けて、活動の場を工夫し、児童が自分を大切にすると同時に自信をもって活動できるようにしたい。

ウ教員の授業力向上

・児童の学力向上のため「できた」「わかった」を合い言葉に授業改善を図っていくとともに、「足立スタンダード」に基づいた問題解決型授業を実践していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・新型コロナウイルス感染拡大のため、なかなか学校公開ができませんでした。それでも扇小学校の教育活動にご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。また、子供たちの毎日の健康観察にご協力いただき本当に感謝しております。子供たちは感染防止に気を付けながら、毎日元気に学習に取り組んでいます。次年度も学力定着のための取り組みを充実させていきます。子供たちが「できた」「わかった」と顔を輝かせる授業を目指してまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、学校での感染防止に努めてきた。授業の中でも密にならないよう配慮した活動を工夫し、その中で ICT の活用は大変有効であったが、活用の幅を広げることには課題が残った。来年度は、さらに ICT の活用やプログラミング教育を充実させるため、教職員の研修を行い活用の幅を広げていく。